

赤や青の染粉を入れては、むらだらけのものを作りました。も
し中に少しでも好いのが出来ようものなら、大きすぎず、と
んだり、はねたりして、よろこんで。かわきもしない布を頭に
つけたり、腰にまいたりしているのです。

凝り屋の私達が、あつてもない、こうでも無いとひねつて作つ
たプログラムは。それでもまあ感じ悪く無い様には出来ました。
其表紙に着色するのも一仕事でした。

三十日と廿七日と、くりかへて、人體部だけは土曜日に休む事
になりましたので。金曜日の午後、すぐ舞臺を作つてしまわう
と云ふ事になりました。雨の中を、不足な材木を買ひに行つた
りして。夕方までには、舞臺を作り上げました。小ぢんまりし
た——とよりは、少し小さすぎる舞臺でしたが、然し何しろ、
畫室の中の仕事ですから、これでも余程贅澤だつたのです。

舞臺が出来ると、夜になりました。燈りを點けてバツクを張つ
て、すぐ稽古を始めました。(歡樂の鬼)の連中などは、まだ白
かのみこめないと云つて、大きすぎをしてゐました。

其次の日も、準備や、稽古に暮れました。夜の十二時過ぎにな
つて、家に歸れない人々は、七八人も研究所に泊まりました。

二十八日は、いよく新年會の當日です。昨夜家に泊つたEさん
と、私とが、研究所へ出掛けて行つたのは、朝と云つても、も
う午近くでした。皆も今起きたばかりかて、火鉢のそばにあつま
つてゐました。

樂屋はわれてから、控え室の六疊だと云ふ事に定められてあり

ました、けれど、とても這入り切れそうもありません。そこで
相談し、私とEさんと、F君とT君とて、三疊の室の半分を占領
しました。私有家からもつて来た大きな鏡を掛け、火鉢の上に
鐵瓶をかけ。そして衣裳の這入つてゐるトランクの上に。駒形
の(百助)から買つて来た化粧道具をならべた時。皮肉屋のY君
の「すつかり樂屋になつたね」と云ふ言葉さへ、うれしく聞えた
程、私の心は喜びに満ちてゐました。

課 題

左の課題につき、汎く投書を募る。(春鳥會宛のこと)

余は如何にして水彩畫を愛好 又は描くに至りしか

即ち水彩畫を、愛好するに至つた原因や、理由、又
はその動機等、諸君が直接經驗を、有りのまゝ、率
直に語られたし。

締切は三月三十一日にして、五月號の「みづゑ」に掲
載すべく、文牀は言文一致がよろしく、成るべく簡
明にして、修飾なきものを歓迎す、但し文章の巧拙
に依つて、取捨するものにあらず。